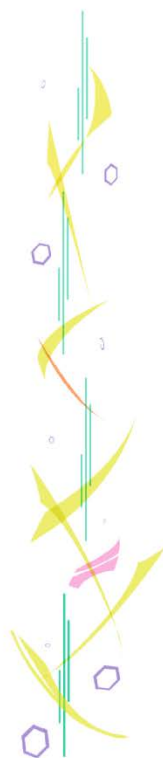




学びの広場シリーズ

診療編

緩和ケアとは？



静岡県立静岡がんセンター

このパンフレットは、静岡がんセンターよろず相談が主催の
学習講演会「学びの広場」の講演内容をもとに作成しました。
緩和ケアについて知りたい時に参考にしてください。



第 1 章 緩和ケアとは

2

「緩和ケア」とは	3
緩和ケアはいつでも受けられる	4
あなたを支えるチーム	5
緩和ケアはいろいろな場所で受けられる	7
緩和ケアの内容	9
緩和ケアに関する情報の集め方	11

第 2 章 病院で緩和ケアを受ける

14

病院で緩和ケアを受ける	15
緩和ケアチーム	16
緩和ケア病棟	17
緩和ケア病棟 よくあるご質問	19
緩和ケア病棟の入院費用	22

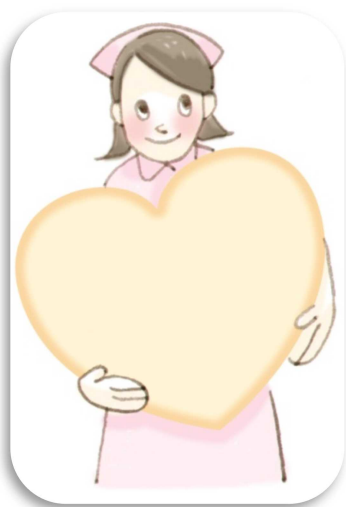
第 3 章 自宅で緩和ケアを受ける

24

自宅で緩和ケアを受ける	25
在宅緩和ケアでできること	27
在宅緩和ケア よくあるご質問	29
在宅緩和ケアの費用	31
参考になる本のリスト	32

第1章

緩和ケアとは



「緩和ケア」とは

緩和ケアは、がんにもなってしまう**さまざまなつらさをやわらげる**ためのケアです。

体のつらさ、こころのつらさ、生活のつらさなど、さまざまなつらさを抱えたがんの患者さんご家族を、総合的に支えるケアのことを言います。

長い間つらい状態が続くと、考えたり、眠ったりすることも大変になります。食欲や気力も落ち、これまで通りの生活を送ることが難しくなってしまうかもしれません。

体やこころのつらさをやわらげることは、とても大切なことです。



緩和ケアはいつでも受けられる

緩和ケアは、**がんと診断されたときから、いつでも受けることができます。**

以前は、緩和ケアはがんを治すための治療の継続が難しくなった患者さんに対してだけ行うものと考えられていました。

しかし今では、つらさを取って、自分らしく生きていくことは、病気の時期を問わず、大切なことだと考えられるようになっています。

緩和ケアの基本には、「患者さんやご家族の **QOL** を、一番に大切にしていこう」という考え方があります。

緩和ケアは、がんそのものが引き起こすつらさはもちろん、がんの治療や検査が原因となるつらさもやわらげていきます。

“患者さんご家族が、自分らしい生活を取り戻す”

それが、緩和ケアが目指しているゴールです。

最善の治療を受けても、がんを完全には治しきれないことがまだあります。たとえがんの治療が難しい状態になっても、緩和ケアは患者さんご家族を支えていきます。

QOL とは？

QOL は、**Quality Of Life (クオリティ オフ ライフ)** の略です。

「生活の質」「生命の質」「生きることの質」などと訳されています。

がんと上手につきあっていくためには、生命の「長さ」とともに、その「質」のことも十分に考えていくことが大切です。

あなたを支えるチーム

がん患者さんとそのご家族の悩みはさまざまです。悩みが互いに影響して、さらに深刻になってしまうこともあります。

複雑に重なりあった悩みをときほぐし、包みこむような総合的なサポートを行うために、**緩和ケアではチームであなたを支えます。**

患者さんにご家族は、チームが支える対象であると同時に、チームの大切なメンバーでもあります。

ご家族は 患者さんの大切な支えです

そんなご家族を 緩和ケアは支えます

ご家族も、緩和ケアチームの一員です。

ご家族によるサポートは、がん患者さんにとって、専門スタッフのケア以上に効果的な、かけがえのない支えになることがあります。そばにいる、というだけでもよいのです。

ただ、不安を抱えながら病気と向き合っているのは、ご家族も同じです。時には、大切な人を支えることにがんばりすぎて、疲れてしまったり、悩んだりすることもあります。

緩和ケアは、ご家族もサポートします。いつでも胸の内をお話してください。ご家族が穏やかにいることが、患者さんの安心にもつながります。

「チームケア」のイメージ



緩和ケアチームのサポートは、
一般病棟 (⇒ p.15) や ご自宅 (⇒ p.25) でも
受けることができます。

緩和ケアはいろいろな場所で受けられる

緩和ケアは、**外来、入院（一般病棟、緩和ケア病棟）、在宅**など、希望にあわせて、様々な場所で受けられるようになっています。



入院して緩和ケアを受ける

- 設備が整っている
- 医師や看護師が常時ケアをしてくれる
- 周りの方と悩みを共有できる
- ご家族の介護負担が少ない
- △ ご家族と一緒に過ごせない
- △ 生活に制限がある



自宅で緩和ケアを受ける

- 住み慣れた環境で療養できる
- 地域の中で暮らすことができる
- 自分の生活リズムを維持できる
- ご家族と一緒に過ごせる時間が増える
- △ 医師や看護師が常に近くにはいない
- △ 通院や介護でご家族の負担が増える



○はプラス面、
△はマイナス面ですが、
あくまで一般論として
お考えください。

緩和ケアの内容



痛みや

つらい症状の軽減

痛みやつらい症状（息苦しさ、吐き気、食べられない、不眠、だるさなど）をやわらげます。

「あなたらしさ」を大切にします

ケアの内容や、生活面であなたが大切にしたいと思うことについては、できる限り、あなたの希望を尊重します。



大切な人たちとの時間

ご家族や友だちと
気がねなく過ごせます。
緩和ケア病棟では、面会、
外出、外泊、飲食などの
制限が一般の病棟よりも
緩やかです。



こころのケア

患者さんご家族のこころをケアします。病気に関することはもちろん、生活上の悩みも受けとめて、サポートします。



日常生活のサポート

食事、入浴、排泄、散歩など、日常生活のいろいろな場面で専門スタッフによるサポートを受けることができます。訓練を受けたボランティアも患者さん・ご家族の支援に活躍しています。



家族のケア

家族は、患者さんにとって大切なサポーターですが、悩んだり、疲れたりすることもあります。家族のサポートは、緩和ケアの大切な目標のひとつです。必要に応じて、家族の休養のためのケア（レスパイトケア）を提供します。



緩和ケアに関する情報の集め方

担当医や看護師、相談室に相談する

緩和ケアを受けてみたいと思ったら、まずは今かかっている病院の担当医や看護師に相談するのがよいでしょう。

また、おかけの病院の「[よろず相談](#)」、「[医療相談室](#)」、「[相談支援センター](#)」を利用するのもよい考えです。ソーシャルワーカー（医療相談員）や看護師が、地域の緩和ケア病棟や在宅ケアに関する情報を提供し、相談に対応しています。

訪問看護ステーションなどの施設に相談する

緩和ケアは、一般の外来受診のように通院しながら受けたり、自宅に居ながら訪問ケアとして受けたりすることもできます。

自宅で緩和ケアを受けることをご希望であれば、お近くの[訪問看護ステーション](#)に相談してみるのもよいでしょう。

訪問看護ステーションでは、医師の指示のもと、看護師が患者さんの自宅を訪問し、医療的なケアやこころのケア、身の回りのお世話などの看護サービスを提供しています。

インターネットで調べる

緩和ケアに関する情報は、インターネットでも調べられます。

インターネットを上手に使いえば、最新の情報を、手軽に入手することができます。その一方、慣れていない方にとっては、どの情報が信頼できる情報なのか、判断に迷うこともあります。

右のページでは、緩和ケアに関して信頼できる情報を出しているホームページをいくつかご紹介しておきます。



- 国立がん研究センター がん対策情報センター
『がん情報サービス』
<http://ganjoho.jp/>
『病院を探す』の『緩和ケア病棟のある病院を探す』から、
全国の一覧をみることができます。また、
がん診療連携拠点病院には必ず緩和ケアチームがあります。
- NPO 法人日本ホスピス緩和ケア協会
<http://www.hpcj.org/>
ホスピスケア・緩和ケアの解説や、緩和ケアを受けることのできる医療機関の一覧などがあります。
- 静岡がんセンター 『Web 版がんよろず相談 Q&A』
<http://cancerqa.scchr.jp/>
がんに関する悩みのデータベース、悩みと助言、これまで発行した冊子の PDF 版などがあります。
- 末期がんの方の在宅ケアデータベース
<http://www.homehospice.jp/>
在宅ケアを行う医療機関についてデータベース化し、機関ごとの概要、受け入れ要件、ケアの内容、費用などの情報提供を行っています。

メモ

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

第2章

病院で緩和ケアを受ける



病院で緩和ケアを受ける

病院で緩和ケアを受ける方法は、大きく分けて二つあります。

一般病棟で「緩和ケアチーム」のケアを受ける

「緩和ケアチーム」は、入院治療中におこる体やこころの様々なつらさをやわらげるための専門チームです。あなたが入院している病棟のスタッフと協力しながら、あなたを支えます。

地域のがん診療の中心を担う「がん診療連携拠点病院」には、緩和ケアチームが必ずあります。

※ 通院で受ける緩和ケアについては ➡p. 25 をご覧ください。

「緩和ケア病棟」でケアを受ける

「緩和ケア病棟」は、緩和ケアを専門的に行う病棟です。

「ホスピス」と呼ばれることもあります。

特に、外来や在宅でつらさをやわらげることが難しい患者さんが利用します。

「緩和ケアチーム」の普及によって、一般病棟でも緩和ケアが受けられるようになってきました。

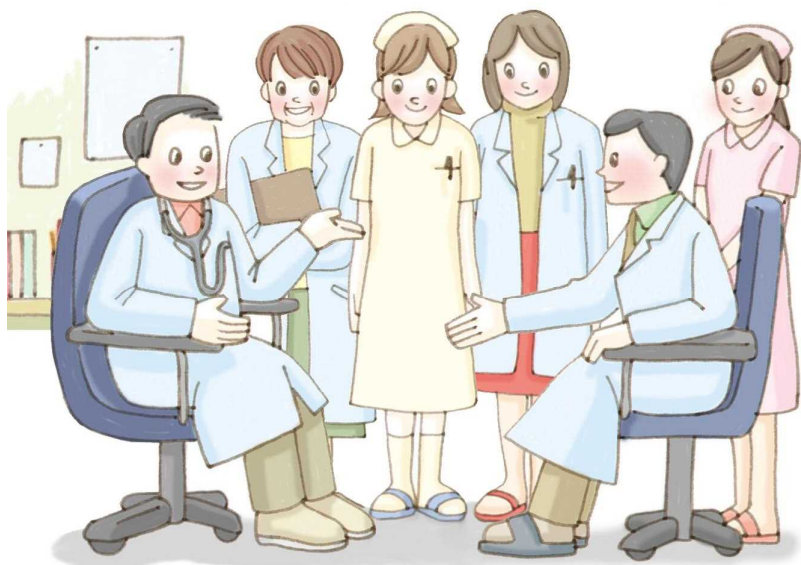
入院中つらいときには、「緩和ケアチーム」の支援を受けられないか、スタッフにたずねてみてください。

緩和ケアチーム

緩和ケアチームは、一般病棟で治療を受けている患者さんとそのご家族を支えます。緩和ケアチームでは、症状緩和の専門医師、精神科医、看護師、薬剤師、心理療法士などが、それぞれの役割を尊重しながら、力をあわせて活動しています。

チームカンファレンス

緩和ケアチームのメンバーは、カンファレンス（会議）で互に対等な立場で意見を出しあいながら、患者さんやご家族にとって最も望ましい支援のあり方を考えます。患者さんの治療を担当している医師たちとも、しっかりと連携を取りあいます。



緩和ケア病棟

緩和ケア病棟には、家族室やキッチン、談話室などが設置されています。また、食事やおしゃべりを楽しめるデイルームや多目的ホール、自由に散歩できる庭園を設けている施設もあります。

以下では参考として静岡がんセンターの緩和ケア病棟の写真をご紹介しますが、外観や内装は施設によって異なります。



緩和ケア病棟

静かで穏やかな環境で生活できるよう工夫されています。

施設によっては、車いすやベッドのまま散策できる庭園があるところもあります。

病室

病室は半数以上が個室です。
一般の病棟よりも少し余裕のある
広さになっています。
ご家族向けの控え室もあります。



談話室・台所

一定の広さがある談話室のほか、
団らんのための食事を作ることができる
キッチンも備えつけられています。
(通常の食事も、もちろん利用可能です)

季節の行事やコンサート



四季折々の行事

お花見、納涼祭、クリスマスなどの四季折々の行事、誕生日などのそれぞれの方の大切な記念日を、スタッフやボランティアと一緒に楽しめます。

コンサート

プロの演奏家がボランティアとして演奏にすることもあります。



ご家族との時間を大切に

緩和ケア病棟の面会、外出、外泊の制限は、一般の病院に比べて緩やかで、ご希望に合わせて調整されます。患者さんご家族のプライバシーは最大限に守られます。



緩和ケア病棟 よくあるご質問

緩和ケア病棟入院の条件

原則として、がんの治癒が困難で、体やこころにつらさを抱えている患者さんが入院の対象になります。

入院の条件は、通常、①患者さんとご家族が入院を希望すること、②外来や在宅で緩和ケアを行うことが難しいこと、の二点です。

患者さんにとって緩和ケア病棟に入院した方がよいのかどうか、入院するとしたらその時期はいつにするか、ということは、緩和ケア外来での診察結果をもとに、緩和ケアチームの医師や病棟スタッフらが話し合いながら決めます。

末期がんの人が入院するの？

一般的には、緩和ケア病棟では、がんを治すための治療が体力的に難しい患者さん、またはそういった治療を希望しない患者さん、「がんによるさまざまなつらさを楽しむためのケアをしてほしい」という患者さんを受け入れています。

施設によっては、レスパイトケア（介護者の休養のための一時入院）ができる場合もあります。詳しくは、各施設にお問い合わせください。



病気を告知しなければダメなの？

施設によって方針に違いがあるので、たずねてみてください。

緩和ケア病棟の中には、病名や病状を知っていることが患者さん自身のよりよい生活につながると考えて、病気の告知を入院の前提条件としている施設もあります。

施設によっては、患者さんが病名や病状を理解していることを入院の条件とはしてはいませんが、入院後には、患者さんの求めに応じて、病気のことや入院の目的をお話する、という方針をとっている場合もあります。

すぐに利用できますか？

施設にもよりますが、一般的には、緩和ケア病棟は希望してから入院まで、何週間か待つことが多いようです。

体調が急に悪くなってからでは、間に合わないこともあります。緩和ケア病棟の利用をご希望の場合は、「緩和ケアを受けたい」という意思を担当医に伝えた上で、希望する病院の緩和ケア外来を一度受診して、相談しておくといでしょう。

緩和ケア外来は多くの場合、予約制になっています。また、担当医の紹介状（診療情報提供書）が必要になります。まずは希望する施設に電話をし、必要な手続きや書類を確認しましょう。

入院の順番については、申し込みの順番だけでなく、患者さんの体の具合や緊急度を配慮する施設が多いようです。

家に帰ることはできますか？

患者さんの体調が落ち着けば、外出はもちろん、外泊や退院も可能になります。

また、限られたベッド数でできるだけ多くの患者さんをケアするため、緩和ケア病棟では、体調が落ち着いた患者さんに、ご自宅での療養を勧めることもあります。

病状が悪化した際には、再入院することもできます。

入院中はどんなふうに過ごすの？

緩和ケア病棟では、患者さんご家族が、気がねなく、自分らしい生活を送ることができるよう、いろいろな配慮がなされています。

緩和ケア病棟では、「何時に必ずこれをしてください」といった日課のようなものは、原則的にありません。起床、就寝、食事、面会などの時間については、可能な限り、患者さんのご希望にそえるようにしています。

家族は付きそうの？

患者さんのご希望があれば、付きそうこともできます。

ご家族によるサポートは、薬や病棟スタッフのケア以上に、患者さんのつらさを癒す効果があります。

緩和ケア病棟は個室が多く、プライバシーも十分配慮されます。

ご家族の希望があれば、補助ベッドや院内の家族室で宿泊することも可能です。



緩和ケア病棟の入院費用



ポイント

- 緩和ケア病棟の入院料は、1日単位で診療報酬点数が決まっている定額制（厚生労働省から緩和ケア病棟として承認を受けた施設の場合）
- 緩和ケア病棟の入院費用の目安は、下記
$$(A) + (B) + (C)$$
 - (A) 緩和ケア病棟入院料の自己負担分
 - (B) 食事の自己負担金
(2018年4月から一般の方は1食460円※1に変更)
 - (C) 差額ベッド代など保険外費用
- (A)の<緩和ケア病棟入院料>は、高額療養費制度が適用されるので、1ヶ月の自己負担額を一定の金額におさえることができる
- 医療費（ここでは、(A)緩和ケア病棟入院料の自己負担分）が高額になりそうな時には、あらかじめ限度額適用認定証などの所得区分の『認定証』の交付を受けて医療機関の窓口で提示することで、窓口での支払いを自己負担限度額までにとどめることができる
- 差額ベッド料など保険適用外費用を事前に確認しておく

※1 食事の自己負担金

ただし、住民税非課税世帯で認定証をお持ちの方は、食事代が減額になります。

緩和ケア病棟入院料の区分

平成30年度の診療報酬改定で、〈緩和ケア病棟の入院料〉が変更になり、入院料の区分がさらに複雑になりました。

これまで、入院日数によって3区分に分かれていましたが、この区分に加え、施設の状況（施設基準）により、入院料は2種類（緩和ケア病棟入院料1か緩和ケア病棟入院料2のどちらか）に分かれるようになりました。

ただ、繰り返しになりますが、〈緩和ケア病棟の入院料〉に関しては、高額療養費制度が適用されます。つまり、手術、抗がん剤治療、放射線治療などを、入院や外来通院で行ったときと同じように、高額療養費制度により、1ヶ月の自己負担額を一定の金額におさえることができます。

ご不明な点、緩和ケア病棟の利用にかかる費用に関するさらに詳しい情報は、おかけりの病院の相談室のソーシャルワーカーや病院の会計担当者にご相談ください。



緩和ケア病棟の入院料の見直し

平成30年度の診療報酬改定で、緩和ケア病棟の入院料は施設の状況（施設基準）により2種類にわかれしました。

これは、①緩和ケア病棟の待機患者を減らすこと、②在宅医療との連携を推進すること、の2つの観点から決められました。

2種類の入院料は、平均待機期間や在宅への移行実績に関する要件で、区分がもうけられています。

第3章

自宅で緩和ケアを受ける



自宅で緩和ケアを受ける

緩和ケアは、自宅で生活を続けながら受けることもできます。

自宅で緩和ケアを受ける際には、病院や診療所に定期的に通院して受ける方法と、在宅でかかりつけ医や看護師の訪問を受ける方法があります。

通院して緩和ケアを受ける（緩和ケア外来）

入院して受ける緩和ケアと同じように、通院でも、痛み止めの薬をもらったり、悩みごとを相談したりすることができます。

また、専門の緩和ケア外来を設置している病院もあります。



在宅で訪問サービスを受ける

通院して緩和ケアを受けることが難しくても、自宅に居ながら、さまざまな訪問サービスを受けることが可能です。

在宅で受けられる訪問サービスには、訪問診療（かかりつけ医）、訪問看護（看護師）、訪問介護（ホームヘルパー）、訪問薬剤管理指導（薬剤師）、訪問リハビリテーション（理学療法士など）などがあります。

医療保険や介護保険を使うこともできます。



薬の進歩や制度の充実によって、自宅でも、質の高い緩和ケアを受けることができるようになりつつあります。

在宅緩和ケアは、特にこんな方選ばれています。

住み慣れた自宅で
できるだけ長く
暮らしたい。

人間関係の
わずらわしさを忘れ
家族や知人と
できるだけ多くの
時間を一緒に
楽しみたい。



やり残した仕事を
やりとげたい。
家族としての務めを
果たしたい。

誰にも気がねなく
自由に好きなことを
して過ごしたい。

在宅緩和ケアでできること

在宅緩和ケアでは、次のようなサービスを受けることができます。
医師や訪問看護師、ケアマネジャー（介護支援専門員）と相談しながら、上手に利用しましょう。



外来での診察 ／訪問診療

病院に通院したり、自宅でかかりつけ医による定期的な診察を受けたりすることができます。

訪問看護サービス

看護師がご自宅を訪問します。
体の具合をチェックするほか、
医師の指示による医療処置や
体調などの報告を行います。



訪問介護サービス

ホームヘルパーがご自宅を
訪問して、食事、着替え、
入浴、用便などのお手伝いを
します。



訪問入浴サービス

自宅のお風呂に入るのが難しいときは、携行式の専用バスタブを使う訪問入浴サービスも受けられます。

訪問リハビリテーション

専門のスタッフが、日常生活をスムーズにして、痛みを予防するためのリハビリテーションを行います。



デイケア／デイサービス

家族が不在の日中だけ施設に通って、ケアを受けたり、友だちと交流を楽しんだりすることができます。

このほかにも、訪問歯科診療、福祉用具の貸し出し、具合が悪くなったときの短期的な施設入所など、いろいろなサービスを利用することができます。くわしくは、医師（担当医、かかりつけ医）、病院の医療相談室、お近くの訪問看護ステーションなどにご相談ください。

在宅緩和ケア よくあるご質問

自宅での介護は大変なのは？

緩和ケア病棟に入院することに比べると、確かにご家族の負担は大きくなります。ただ、**介護のふれあいの中で、お互いにとって大切なことが伝わる場合**もあります。

また、最近では、在宅で利用できるさまざまなサービスも充実してきました。これらのサービスのほとんどは、医療保険や介護保険を使って、総費用の1割～3割の自己負担額で受けられます。

家族だけで支えていけるのでしょうか？

適切なケアの方法をお伝えするのも、在宅緩和ケアを行うスタッフ（訪問看護師、かかりつけ医など）の大切な役割です。わからないこと、不安な点は、どんどん質問しましょう。

患者さんやご家族の中には、「いつも相手がどんな様子か、『気配で感じられる』というのが、家ならではの安心感」、とおっしゃる方もいます。

在宅緩和ケアを受ける条件はあるの？

患者さんご本人が家で過ごすことを希望することが、在宅緩和ケアを受けるためにまず必要な条件です。

これに加えて、日常生活をサポートしてくれるご家族が（できれば複数）いることや、在宅緩和ケアを行う病院や診療所が自宅の近くにあることも、在宅緩和ケアを受けるために望ましい条件と言えます。

病状によっては在宅緩和ケアを受けることが難しい場合もあります。ご自分の場合はどうなのか、担当の医師に相談してみてください。

急に具合が悪くなったときに診てもらえますか？

訪問看護師やかかりつけ医に相談して、急に具合が悪くなった時にどこに連絡すればよいか、きちんと確認しておきましょう。

訪問看護ステーションや**在宅療養支援診療所**が、24 時間体制で患者さんご家族を応援します。在宅療養支援診療所の詳細については、次のページをご覧ください。

自宅で療養することが難しくなったときには、一時的に入院して、その後のことを医師と相談することも可能です。在宅緩和ケアに力を入れている病院も出てきています。

自宅で最期を迎えることはできますか？

継続して医師による訪問診療を受けていれば、自宅で最期まで過ごすこともできます。

患者さんが実際に亡くなる時に、必ずしも医師や看護師がそばに立ち会う必要はありません。たとえば、深夜に亡くなられた時には、翌朝まで待ってから連絡しても問題はありません。

亡くなる前には、患者さんの体やこころの状態が変化することもよくあります。変化の多くは、誰もが経験する、自然なものです。

どのような変化が予想されるのか、どんなことが起きたら医師や看護師に連絡すればよいのかなど、心配なことを、担当の医師や看護師に必ず相談しておきましょう。



在宅緩和ケアの費用

「家にいながらお世話してもらうなんて、すごくお金がかかるのでは？」と思われるかもしれませんが、実際には、在宅緩和ケアが入院と比べて格段に費用がかかるということは、ほとんどありません。

在宅緩和ケアでも、入院と同様に、医療保険や高額療養費制度が使えます。患者さんが40歳以上であれば、病状によっては、介護保険を使って日常生活の様々な場面で介護サービスを受けることができる場合もあります。

ただし、在宅緩和ケアにかかる費用は、患者さんの状態、ご家族の介護力、医療機関の方針等によっても違ってきます。

詳しくは、病院の相談窓口やお近くの**在宅療養支援診療所**に相談してみてください。

在宅療養支援診療所

在宅療養支援診療所は、24時間体制で、患者さんやご家族からの連絡を受け、往診や訪問看護を提供できる仕組みを整えている診療所です。在宅療養支援診療所は、介護サービスを調整するケアマネジャー（介護支援専門員）との連携や、容体急変時に入院できる病院とも連携しています。

在宅療養支援診療所は、2006年度から届け出が始まった比較的新しい制度ですが、2011年 1 月現在、全国各地で約 11,600 箇所が登録されています。

お住まいの近くの在宅療養支援診療所は、病院の相談窓口への問い合わせのほか、インターネットで直接検索することもできます。



参考になる本のリスト

緩和ケアやホスピスについてわかりやすく説明してある本を集めてみました。ほかにも数多くの本が出ています。患者図書室、図書館、書店などでおたずねください(本の価格表示は税抜きです)。

【緩和ケア・ホスピスの考え方について知りたい】

『定本 ホスピス・緩和ケア』 柏木哲夫 (医師)

2006 年、304 ページ、青海社、2200 円。

『苦しみの中でも幸せは見つかる』 小澤竹俊 (医師)

2004 年、206 ページ、扶桑社、952 円。

『大阪大学新世紀セミナー ターミナルケアとホスピス』

柏木哲夫 (医師)

2001 年、96 ページ、大阪大学出版会、1000 円。

【痛みなどのつらさをやわらげる方法について知りたい】

『やさしい がんの痛みの自己管理』 改訂 4 版 武田文和 (医師)

2015 年、44 ページ、医薬ジャーナル社、2200 円。

『ホスピス医に聞く一般病棟だからこそ始める緩和ケア』 改訂 2 版

池永昌之 (医師)

2009 年、240 ページ、メディカ出版、2200 円。

【緩和ケア病棟の様子や雰囲気について知りたい】

『河辺家のホスピス絵日記 愛する命を送るとき』改訂新版
河辺貴子 (ご遺族)・山崎章郎 (医師)
2014 年、301 ページ、聖公会出版、2000 円。

『ホスピスでむかえる死 安らぎのうちに逝った七人の記録』文庫
大沢周子 (ジャーナリスト)
2003 年、304 ページ、文藝春秋、552 円。

『僕のホスピス 1200 日 自分らしく生きるということ』文庫
山崎章郎 (医師)
1999 年、256 ページ、文藝春秋、495 円。

『病院で死ぬということ』文庫 山崎章郎 (医師)
1996 年、272 ページ、文藝春秋、510 円。

『続 病院で死ぬと言うこと—そして今、僕はホスピスに』文庫
山崎章郎 (医師)
1996 年、256 ページ、文藝春秋、476 円。

【在宅緩和ケアについて知りたい】

『家で看取るということ』川越厚 (医師)・川越博美 (看護師)
2005 年、254 ページ、講談社、1500 円。

『在宅ホスピスのススメ』二ノ坂保喜 (医師) 監修
2005 年、344 ページ、木犀舎、2381 円。

『病院で死なないという選択』中山あゆみ (ジャーナリスト)
2005 年、240 ページ、集英社、660 円。

緩和ケアとは？

発行：2008年06月
改訂：2011年01月
改訂：2012年04月
改訂：2014年10月
改訂：2015年10月
改訂：2016年03月
改訂：2016年08月
改訂：2018年04月

発行：静岡県立静岡がんセンター
監修：静岡県立静岡がんセンター 総長 山口 建
作成：静岡県立静岡がんセンター

〈問い合わせ先〉
静岡県立静岡がんセンター 疾病管理センター
〒411-8777静岡県駿東郡長泉町下長窪1007
TEL 055-989-5222 (代表)

